

DAIMLER

この資料は、2009 年 7 月 29 日にダイムラーAG から発表された
プレスリリースの日本語抄訳です。

2009 年第 2 四半期決算は第 1 四半期よりも改善

Press Information

2009 年 7 月 29 日

- ・ EBIT*はマイナス 10 億 500 万ユーロ（前期： マイナス 14 億 2,600 万ユーロ）
- ・ EBIT はクライスラーおよびダイムラー・トラックの特別要因マイナス 6 億 400 万ドルを含む
- ・ 純損失 10 億 6,200 万ユーロ（前期： 純損失 12 億 8,600 万ユーロ）
- ・ 営業事業による EBIT はマイナス 4 億 100 万ユーロ
- ・ 産業部門のフリーキャッシュフローは積極的な在庫削減により 14 億ユーロのプラスに
- ・ 営業収益は年内にゆるやかに回復の見込み

* EBIT: 利払い前の税引き前当期利益

ダイムラーAG の 2009 年第 2 四半期決算は、世界不況が続く中で、営業事業による EBIT が第 1 四半期のマイナス 14 億 2,100 万ユーロから改善し、マイナス 4 億 100 万ユーロとなりました。これは、これまでに実施された対策の効果によるものです。

ダイムラーAG のディーター・ツェツェ会長 兼 メルセデス・ベンツ・カーズ統括は「とくにメルセデス・ベンツ・カーズ、それにメルセデス・ベンツ・バン、ダイムラー・ファイナンシャル サービスでも、2009 年第 1 四半期に比べて収益が改善しました。これはダイムラーが正しい方向に歩んでいることを示すとともに、これまで実施した対策の効果が現れたものと言えます。しかし、きわめて好調だった前年同期実績と比較すると、課題はまだまだ山積していると言わなければなりません」と述べています。

2008 年第 2 四半期との比較

EBIT はマイナス 10 億 500 万ユーロ（前年同期：プラス 20 億 5,300 万ユーロ）となりました。

EBIT の前年からの減少はおもに、メルセデス・ベンツ・カーズ、ダイムラー・トラック、メルセデス・ベンツ・バン、ダイムラー・バスの販売台数の落ち込みによるものです。さらに、子会社事業の最適化やポジショニングの見直しに伴う支出も減益要因となりました。具体的な支出額は、三菱ふそうトラック・バス株式会社が 2 億 400 万ユーロ、ダイムラー・トラック・ノースアメリカが 1,300 万ユーロとなっています。ダイムラー・ファイナンシャル サービスでも、リスクコストの上昇により前年同期から減益となりました。

もう 1 つ減益要因として挙げられるのが、非流動引当金の割引率の減少と為替変動で、これらは合せて 2 億 1,400 万ユーロとなっています。ドイツ国内における企業倒産の大幅な増加により、2009 年はドイツ年金保護協会に対する年間負担金が増額となる見込みで、ダイムラーグループではこの目的のために 2009 年第 2 四半期に相応の引当金として 7,800 万ユーロを計上しました。

グループでは、世界的な経済危機の発生を受けてコスト削減や効率向上対策を実施しましたが、減益幅はこれによって縮小されています。

クライスラーをめぐる依然として未解決の問題について、クライスラー、サーベラス、米国年金給付保証公社 (PBGC) との間で結んだ合意により、ダイムラーは保有するクライスラー株式 (出資比率 19.9%) を 2009 年 6 月 3 日付けで放棄し、すでに 4 月末にお知らせしたとおり、クライスラーの年金計画に対して 3 回にわたって 2 億米ドルずつ払い込むこととしました。この支払い は 1 回目の合意を締結後、第 2 回、第 3 回をそれぞれ 2 年後に行うこととなっています。これらの合意により、今期の決算には 3 億 8,700 万ユーロの支出が計上されています。

なお、前年同期の EBIT では EADS 社の株式譲渡に伴う利益 (3,500 万ユーロ) が増益要因となり、逆に、ダイムラーのクライスラー社への出資に係る費用 (3 億 7,300 万ユーロ) が減益要因となっていました。

純損益は純損失 10 億 6,200 万ユーロ(前年同期: 純利益 13 億 9,500 万ユーロ)、
1 株当りの収益はマイナス 0.99 ユーロ(前年同期: +1.40 ユーロ)となりました。 Page 3

第 2 四半期販売台数は 31%減

ダイムラー全体の販売台数は 39 万 1,500 台(乗用車・商用車合計)と、前年同期を 31%下回りました。

グループ売上高は前年同期の 260 億ユーロから大幅に減少し、196 億ユーロとなりました。為替変動の影響を除いた売上高の減少率は 27%となります。

6 月末現在、ダイムラーの従業員は全世界で 25 万 7,400 人(前年同月末: 27 万 5,000 人)。このうち、ドイツでの雇用は 16 万 2,800 人(前年同月末: 16 万 8,300 人)となっています。

産業部門のフリーキャッシュフローは、運転資金の減少により改善し、プラス 14 億ユーロとなりました。このうち、メルセデス・ベンツ・カーズでは在庫が約 4 万 4,000 台減少し、当初の目標を達成しました。また、他のすべての部門でも在庫調整を実施しました。

グループ産業部門の純流動性は、4 月に行った 5 億 5,600 万ユーロの配当支払いを考慮に入れても、2009 年第 1 四半期末の 37 億ユーロから 46 億ユーロに増加しました。これはおもに、第 2 四半期の産業部門のフリーキャッシュフローがプラスとなったことによるものです。

部門別の詳細について

メルセデス・ベンツ・カーズの販売台数は、世界的に厳しい市場環境が続く中、28 万 7,200 台となりました(前年同期: 35 万 4,000 台)。きわめて好調だった昨年同期に比べて 19%の減少ですが、2009 年第 1 四半期からは 24%増と大きく持ち直しています。これは、コンパクト SUV の GLK が今年から通年販売となったことや、新型 E クラスの発売などによるものです。また、売上高は前年同期比 18%減の 106 億ユーロとなりました。

EBIT はマイナス 3 億 4,000 万ユーロと、前年同期のプラス 12 億 1,200 万ユーロから大きく落ち込みましたが、2009 年第 1 四半期との比較では大きく改善しています。収益悪化の主な要因としては、NAFTA 地域とドイツをはじめとする欧州主要市場で自動車需要が大きく落ち込み、これに伴って販売台数が減少したことが挙げられますが、そのほかにも、価格押し下げ圧力等が収益悪化の要因となりました。

増益要因としては、事業最適化のために実施した対策や、人件費調整措置の効果が挙げられます。

ダイムラー・トラックの販売台数は、世界的な市場の低迷が続いたことから 56%減の 5 万 4,100 台となりました。ただ、市場シェアについてはほとんどの主要市場で上昇しています。売上高は前年同期の 74 億ユーロから 42 億ユーロに減少しました。

また、EBIT はきわめて好調だった前年同期を大きく下回るマイナス 5 億 800 万ユーロとなりました（前年同期：プラス 6 億 800 万ユーロ）。減益の主な要因は、出荷台数が引き続き減少したことですが、そのほかにも 2009 年 5 月に承認された三菱ふそうトラック・バス事業包括的再編計画や、ダイムラー・トラック・ノースアメリカのポジショニング見直しのため昨年から実施されている対策が減益要因となっています（EBIT 減益額はそれぞれ 2 億 400 万ユーロと 1,300 万ユーロ）。このほか、為替の変動が収益に影響を与えました。一方、増益要因としては、人件費調整などの対策の効果が挙げられます。

メルセデス・ベンツ・バンでは、販売台数が 4 万 1,900 台と第 1 四半期を大きく上回りましたが、前年の過去最高実績からはかなり落ち込んでいます（前年同期：7 万 8,600 台）。売上高は 15 億ユーロで、これもやはり前年同期の 26 億ユーロを大きく下回りました。

同部門もやはり一般的な市場動向の影響を免れず、EBIT はマイナス 1,000 万ユーロとなりました（前年同期：プラス 2 億 6,200 万ユーロ）。この中では、効率向上と一部通貨の為替変動が増益要因となっています。

ダイムラー・バスはバスおよびシャーシの販売台数が 8,300 台（前年同期：1 万 1,100 台）。シャーシについては、不況の影響でラテンアメリカの需要がとくに打撃を受けました。南米での市場縮小に加え、メキシコでも需要が急激に減少しましたが、米国では逆に前年同期を上回る販売台数を記録しました。欧州では、市内バスの

事業が引き続き安定して推移しましたが、長距離バスの需要は減少しました。売上高は 11 億ユーロで、減少率は構造的な改善により 17%と、販売台数の減少率より少なくなっています。

EBIT は 4,900 万ユーロと前年同期のすぐれた実績(1 億 7,000 万ユーロ)には及びませんでした。需要の大幅な落ち込みが減益の主な要因となっています。

ダイムラー・ファイナンシャル サービスでは、第 2 四半期末の契約額が 603 億ユーロと、前年の同時期に近い水準となりました。ただ、2008 年 12 月 31 日と比べると 5%減となっています。この昨年末からの減少幅は為替調整後では 6%となります。新規事業は前年同期比 16%減の 65 億ユーロとなりました。

EBIT は 7,900 万ユーロ(前年同期: 1 億 8,300 万ユーロ)となりました。信用リスク対策費用の増加と金利利幅の減少が最大の減益要因ですが、自動車部門の販売支援を強化することを目指すメルセデス・ベンツ・バンクの直接金融事業の拡大でも支出が発生しました。

その他の事業活動(とくに持分法が適用される EADS、トグナムへの出資)については、2009 年初めより「調整」の部に移しました。

EADS 純利益に占めるダイムラー帰属分は 1,500 万ユーロ(前年同期: 3,200 万ユーロ)。クライスラー、サーベラス、米国年金給付保証公社(PBGC)との間で結んだ合意、ならびにクライスラー関連資産の評価の結果、総額 3 億 8,700 万ユーロの支出が発生しました。

今後の見通し

各事業部門の計画にもとづき、2009 年の総販売台数は前年の 210 万台を大幅に下回ると予測しています。

メルセデス・ベンツ・カーズでは、年後半にも事業の回復を見込んでいます。新型 E クラス・セダンとクーペが出揃ったことに加え、新世代 S クラスが 2009 年 6 月末に発売されたことで販売にはずみがつくものと予想されます。S 400 HYBRID に加え、量販 BlueEFFICIENCY モデルが導入されることで、ラインアップ全体にきわめて環境にやさしく低燃費の駆動システムが加わることになります。さらに、コンパクト SUV の

GLK には 2009 年 3 月末より、新型 4 気筒ディーゼルエンジンを搭載したエントリーモデルが発売されているほか、この秋には E クラス・ステーションワゴンも登場します。スマートフォーツーについては、重要な成長市場である中国およびブラジルへの導入により販売の拡大を図ります。 Page 6

ただ、メルセデス・ベンツ・カーズについては、今年前半における主要販売市場と重要なセグメント低迷の影響を完全に補うことは不可能と見られ、2009 年通年の販売台数は 2008 年を下回るものと予測されます。販売台数は、とくに米国、西欧、日本で落ち込みが予想されますが、これを一部相殺する形で、中国をはじめとする新興市場では増加が期待されます。同部門では、今年後半の販売台数は前半を上回ると予測しています。

今後の販売台数予測にもとづき同部門では、収益はしだいに回復し、年後半には収益も黒字に転ずると見込んでいます。

ダイムラー・トラックでは、グローバル経済の長引く危機により、2009 年通期の販売台数については大幅な減少を予想していますが、ただ、現時点では、年後半の販売台数は前半と同程度となり、市場シェアも少なくとも安定を保つと見ています。販売台数の減少も収益に影響を及ぼし、その影響はコスト削減対策によっては部分的にしか相殺されないと見られます。ダイムラー・トラック・ノースアメリカと三菱ふそうのポジショニング見直し・事業再構築のための対策費用も通期 EBIT の減益要因となります。

メルセデス・ベンツ・バンでは、主要市場で不況が続いていることから、今年後半の販売台数は前半をわずかに上回る程度と予測しています。ただ、第 3、第 4 四半期の収益については、これまでに実施した対策の効果により若干改善が見込まれます。

ダイムラー・バスでは、中核市場の需要は現時点の水準で安定的に推移すると見ています。EBIT は、新製品の研究開発費用が増加するにもかかわらず、年後半は黒字を回復すると予測されます。

ダイムラー・ファイナンシャル サービスでは、2009 年通期は不良債権の増加と引き続きの借り換え費用の増加が予測されます。コスト増については効率改善プログラムにより少なくとも部分的に相殺することを目指しており、今年後半の EBIT はわずかに黒字となる見込みです。通期契約額は 2008 年を下回ると予測されます。

ダイムラーグループ全体の 2009 年通期業績は、総売上高が大幅に減少(前年: 959 億ユーロ)する見込みです。 Page 7

2009 年末の従業員数は、生産量の調整と的を絞った生産性改善の取り組みにより前年末より減少する見通しです。

グループとしてコスト削減または上昇回避のためにこれまで実施した対策のコストの総額は 40 億ユーロに達しました。内容は、人件費抑制措置のほか、固定費の削減やグループ組織構造のいっそうの合理化となっています。これらの対策は、従来の効率強化プログラムを補完するものです。さらに、プロジェクト実施についての検討を進めており、競争力強化に直接関係しないものについては延期を進めています。

これらの対策が本格的な効果を現すのは年後半になりますが、ダイムラーグループでは、この対策と新型 E クラスの発売により、収益は年内にもしだいに改善していくと考えています。